

第 46 回 大阪市廃棄物減量等推進審議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 21 年 4 月 28 日（火）午前 10 時から午前 11 時 54 分まで
- 2 場 所 大阪市環境局 第 1・2 会議室（あべのルシアス 12 階）
- 3 出席者
（委 員）
藤田会長、村田副会長、大橋委員、小川委員、小畑委員、竹内委員、武智委員、
花嶋委員、原田委員、福岡委員、松本委員、山際委員、吉田委員
（大阪市説明者）
深津環境局事業企画担当課長、村上家庭系ごみ減量担当課長、縣事業系ごみ減量担
当課長、松本事業改革担当課長、山崎環境局事業企画担当課長代理（司会）
- 4 議 題 「新たに実施すべきごみ減量・リサイクル施策」について（緊急諮問）
・手数料あり方検討部会報告について
・「中・長期的な視点に立ったごみ減量・リサイクル施策」について
- 5 議事要旨
 - （1） 大阪市から、「第 46 回大阪市廃棄物減量等推進審議会 参考資料」について説明があった。
 - （2） 手数料あり方検討部会から、「ごみ処理手数料のあり方について（報告）[資料 1]」について説明があった。
 - （3） 意見等の概要は以下のとおり
 - ア 「ごみ処理手数料にごみ処理原価を反映し、事業の一層の効率化、経費の節減に努める」としているが、人件費の比重が非常に高い。
 - イ 大阪市は他都市に比べると、トン当たりの処理原価は低いようだが、ごみ減量を進めていくと、トン当たりの処理原価は上がってしまうのではないのか。
 - ウ ごみ処理コストを最大限下げる努力を行うのであれば、処理原価よりも低いごみ処理手数料を検討する必要がある。
 - エ 平均排出日量 10kg 以上か否かで、ごみ処理手数料が無料か有料に判別されるが、事業系ごみか家庭系ごみかで料金体系を分けることを検討できないか。
 - オ 日量排出 10kg 未満の事業者をどのように判別しているのか。排出事業者が大阪市へ届出しているのか、或いは見た目でも 10kg 未満だから家庭系ごみと一緒に収集しているのか。
 - （4） 大阪市から、「大阪市廃棄物減量等推進審議会 [資料 2]」について説明があった。
 - ア 平成 21 年 5 月には、審議会から最終答申をいただきたい。
 - イ 平成 21 年 6 月には、大阪市として中・長期的なごみ減量施策の骨子をまとめたい。
- 6 会議資料
 - （1）「第 46 回大阪市廃棄物減量等推進審議会 参考資料」
 - （2）「ごみ処理手数料のあり方について（報告）[資料 1]」
 - （3）「大阪市廃棄物減量等推進審議会 [資料 2]」
- 7 問い合わせ先
大阪市環境局総務部事業企画担当 担当：城戸・松本
住所：大阪市阿倍野区阿倍野筋 1-5-1 あべのルシアス 13 階
TEL：06-6630-3212 FAX：06-6630-3580